

# GK情報レポート

【2010年発行】

vol. 26

秋号

発行者

権田金属工業株式会社 営業部

〒252-0212

神奈川県相模原市中央区宮下 1-1-16

電話 042-700-0221

FAX 042-700-0660

E-mail: eigyo@gondametal.co.jp

<http://www.gondametal.co.jp>

## Contents

1. IWCC（国際銅加工業者協議会）総会に参加して
2. マグネシウム合金 AZ61 板の暴露試験
3. 第4回国際銅業展覧会に出展
4. 第3回国際マグネシウム展に出展
5. GK 沿革（24回）『JIS工場として』
6. 相場情報『2010年第4四半期見通し』

皆様でご覧下さい。

回 覧 印										
-------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※バックナンバー（Vol.1～25）をご用意しております。ご希望の方は当社営業部までお気軽にお問い合わせ下さい

権田金属工業株式会社

## 1. IWCC に参加して

9月8、9日に上海で行われた伸銅メーカー、電線メーカーの世界的な団体である IWCC の総会に参加し、それとあわせて7日に行われた上海先物取引所の見学会、10、11日に行われた銅陵市での工場見学会に参加しました。

上海先物取引所（SHFE：The Shanghai Futures Exchange）は、金、銅、アルミニウム、亜鉛、原油、天然ゴム、銅荒引線、鉄棒鋼の8種類が取引されています。銅に関しては中国国内の取引は、この取引所価格が指標として用いられており、LME 価格に対しても影響力を持ちつつあります。

IWCC 総会には11カ国から約90名の参加がありました。ヨーロッパからは遠いということで欧州からの参加者は少なかったのですが、その代わり自国開催ということもあり多くの中国企業が参加していました。同時に行われたセミナーでは、中国経済及び銅加工業の現状などについて6つの講演が行われました。

工場見学会では、安徽省銅陵市に10、11日と一泊二日で行って来ました。これは銅陵市の招待ということで、上海から南京まで中国の新幹線で行き、そこからはパトカー先導（社会主義国にはこういう利点もあるのですね）のバスで合計4時間ぐらいかけて行きました。銅陵市の辺りは3千年以上前から青銅器文明があり、そうしたこともあり銅産業に大変力を入れています。銅鉱山から川下の銅箔工場まで5カ所を見学しました。

今回の参加では、現在世界最大の需要（銅の需要量は日本の4倍以上）を誇る中国の活気と発展の様子を肌で感じることができました。 記者 権田 源太郎



上海先物取引所



IWCC 会議風景



工場見学（建屋は長さ400m、幅100m）



上海風景

## 2. マグネシウム合金 AZ61 板の暴露試験開始

工業材料や工業部品の質的向上を図るために暴露試験が行われます。日本では暴露試験を公平かつ学術的に行う機関として、(財)日本ウエザリングテストセンターがあり、銚子、宮古島と旭川の3ヶ所に暴露試験場があります。

マグネシウムに関しては、日本マグネシウム協会の表面処理技術委員会の下で、AZ31の圧延板やAZ91のダイカスト材などが18年前から宮古島試験場でテストが行われてきました。

今回10月7日に、経過観察とさらに分析するためのテスト材の引き揚げ作業が行われましたが、それを期に、当社製のマグネシウム合金AZ61板もテストに加えてもらうため委員会の皆さんと試験場を訪問しました。

暴露試験では露天でのテストが一般的ですが、アルミニウム、ステンレス、樹脂やマグネシウムの板材などでは、さらに厳しい条件である軒天でも行われています。軒天というのは、屋根(軒)の下の壁や屋根の下につるすテスト方法ですが、雨に濡れてもなかなか乾かないために露天よりも腐食が進みやすくなります。

委員の皆さんと実際の取り外しや取り付け作業を行い、腐食の進み具合などを肌で感じることができたのは有意義な体験でした。

AZ61の耐食性がAZ31よりも優れていることが確かめられることを期待しています。

記者 権田 源太郎



暴露試験会場



表面処理技術委員会のみなさんと



暴露試験会場風景



### 3. 第4回国際銅業展覧会に出展 / 独自技術を世界に向けて紹介

場所：中国上海市、上海光大会展中心

日程：2010年10月10日（日）、11日（月）、12日（火）

主催：中国機械工業併合会、中国有色金属加工工業協会、北京振威展覧有限公司

来場者数：展示会全体 約7,000人。 日本ブース来訪者 約3,000人。

10月10日～12日に上海で開催された第4回国際銅業展覧会に参加いたしました。

本展示会は第4回目となり、毎年北京と上海交互に開催されています。展覧会の目的は、中国の伸銅品／伸銅業を広く中国国内外に紹介すると共に、海外の伸銅品／伸銅業を中国市場に紹介することです。今回、当社は日本伸銅協会の取りまとめの下、㈱キッツメタルワークス、開明伸銅㈱と共同出展いたしました。展覧会への出展は全部で90社以上にのぼり、中国全土から選りすぐりの伸銅メーカー、精錬メーカー、機械メーカー、鍛造メーカー等が集いました。折からの上海の好景気に後押しされるように、展覧会場には熱気が満ち溢れていました。当社は日本から、中国語のカタログ2種×300部、日本語/英語のカタログ×100部を用意して展覧会に臨み、3日間で全てを手渡すことができました。

当社は当社の得意とする黄銅丸棒 300φ×20mm、銅丸棒 210φ×20mm、黄銅丸棒 100φ×200mm、銅丸棒 100φ×200mmを展示いたしました。

太物の展示には、中国のお客さまも興味を示されました。会場を見回してみても、他ブースの展示では、銅棒の最大径については、100φだったこともあり、300φの黄銅丸棒、210φの銅丸棒の存在は会場でも異彩を放っておりました。展示品に惹かれるようにしてブースを訪れたお客さまに、当社が、太物製造が得意だけでなく、日本の市場要求に応じて、常に高品質を維持していることをも伝えると、関心を持った様子で、多くの方々に、こちらの説明を熱心に聞いていただきました。



展示会場入口



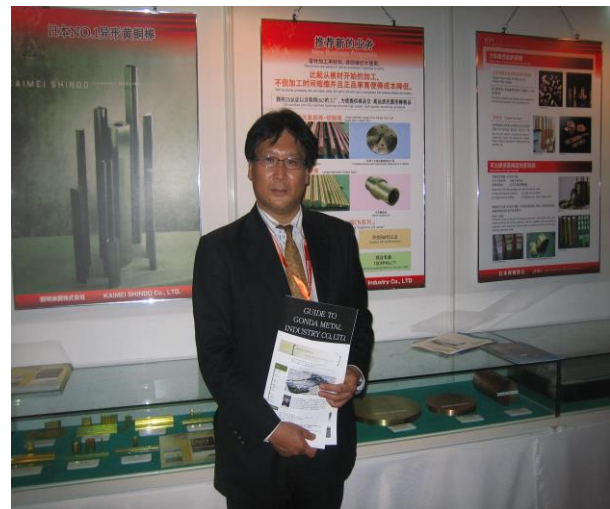
権田金属工業ブース

実際に商談を行った会社は、中国の北は大連、北京から南は深圳までに及び、海外に至っては、台湾、インド、オーストラリア、ロシアからの訪問者もいらっしゃいました。業種も、電気メーカー、自動車メーカー、半導体メーカー、工作機械メーカー、モーターメーカー、商社など多岐に亘りました。幅広い地域や、色々な業種のお客様に対して、製品のPRを行うだけでなく、質疑応答を通して現地の競合相手についてなど、中国での伸銅品ビジネスの一端を伺う事ができました。また、これらのお客様のなかから、現地で引き合いの約束を頂きました。3日間にわたった海外での初めての当社の展覧会も、成功裏に終わることができました。この経験を現地需要の開拓など、今後のビジネスにつなげてゆくつもりです。

記者 田中



展示ブース風景



権田金属工業ブース

#### 4. 第3回国際マグネシウム展に出展

場所：東京ビッグサイト 東3ホール

日程：2010年10月13日(水)、14日(木)、15日(金)

主催：茨城マグネシウム工業会

後援：茨城県 (財)茨城県中小企業振興公社、経済産業省、関東経済産業局、(独)中小企業基盤整備機構、(社)日本マグネシウム協会 他

来場者数：2010洗浄総合展 土壌・地下水環境展 約65,000人

産学官ビジネスフェア2010 約6,000人

当社は「2010洗浄総合展 土壌・地下水環境展」の中で行なわれた「産学官ビジネスフェア2010 第3回国際マグネシウム展」に出展致しました。

今回の展示会には茨城マグネシウム工業会に加盟している企業を中心とし、31社が出展致しました。

国際マグネシウム展は独自保有技術や産学官連携の成果である新技術の紹介と製品の出展が行なわれ、ビジネスにつながるチャンスを秘めた産学官連携を目的として開催されています。

今回の展示会ではマグネシウム合金 AZ61 薄板や板幅 600mmのコイル材、リフローパレット、2009年10月に導入したサーボプレス機によるマグネシウム合金 AZ61 のパソコン・携帯電話の筐体サンプル、カップリングテスト材などを展示しました。

当社のブースには3日間で約100名の方々が訪れ、マグネシウムの製造方法やプレス成形性、加工性、表面処理などについての質問が多く寄せられました。

また、サンプルの希望や具体的な引合、専門的な質問なども多く、次世代の素材としてマグネシウムに対する関心や期待の高さが伺えた展示会となりました。

記者 工藤



## 5. 沿革

権田金属工業㈱は1991年（平成3年）4月24日、通商産業大臣から伸銅品の日本工業規格（JIS）表示許可工場としての認可を受けました。引き続いて更新および新設設備の投資も続けており、1991年（平成3年）4月には渦流探傷機（銅丸棒用）、同年6月には無酸化焼鈍炉（ローラーハース式・ブスバー用）、同年7月には銅球研磨装置、1993年（平成5年）11月には630t冷間鍛造プレスを導入しました。こうした中で3代目社長が新たに挑んだのが加工メーカーへの道でした。素材メーカーとしてのノウハウに付加価値をつけようと加工分野に手を挙げたもので、扱うのは精密鍛造や機械加工です。「素材メーカーとしてのノウハウを生かして加工まで手がければ中間工程がカットされ、スピードアップ、ローコスト化が可能になり、約10%コストダウンになる。製造業にとっては欠くことの出来ない戦略」（権田源太郎社長談）として踏み切ったものです。平成7年にスタートした当初は経験不足で簡単ではありませんでしたが、その種まきが徐々に実を結び、電機、半導体、機械の各業界に取引先を拡大、販路は国内だけでなく中国などアジア地域にも広がっています。そんな素材・加工一貫メーカーの道を歩み始めた矢先の1995年（平成7年）11月4日、2代目社長の権田金属工業株式会社最高顧問になっていた権田忠志が永眠しました。

その葬儀が11月7日の密葬の後、12月4日午後1時から東京都文京区大塚5丁目の護国寺桂昌殿で権田金属工業㈱と権田総業㈱の合同社葬によりおごそかにとり行われました。3代目の権田源太郎社長にとって父親の2代目社長は偉大な存在でした。しかし、3代目社長はそれを乗り越えようと今、「過去80年間、『良品共栄』をモットーに歩んできたが、今後もサービスの『S』、スピードの『S』、テクノロジー『T』を組み合わせた『SST』を理念にさらなる飛躍を目指し、1999年（平成11年）にはISO9000シリーズの取得を予定している。」として、新たな挑戦に燃えています。

（創立80周年誌あゆみより）



## 6. 相場情報

### 1. 電気銅建値推移

10, 7月・・・610円スタート (7月平均 630.0円)

10, 8月・・・670円スタート (8月平均 662.7円)

10, 9月・・・660円スタート (9月平均 687.5円)

10, 10月・・・710円スタート

### 2. LME在庫状況及び需給状況

LME指定倉庫在庫は8月40万トン台、9月40万トン弱、10月37万トン程度と少しずつ減少の傾向をみせている。

‘10年の世界的な銅需要は1,800～1,850万トンと言われているが、供給も1,850万トン強と需給のギャップは少ない。

供給面では、銅鉱石の品位の低下による生産効率の低下で生産量が増えていない。また世界的な不況により銅鉱山開発も遅れており、供給側の大幅な増量は期待出来そうもない。

需要面では欧米、日本等の先進国の経済状態はしばらく厳しい状況が続きそう。アジア地域等の新興国では鉄道や電力関連設備などのインフラ整備で銅需要は拡大しそう。

中国の銅地金の購入も一時期程の勢いは無さそうだが、まだ継続している。

また2011年度の需給予測は、15万トン程度の供給不足となるのではないかと、という予測もあり、これを受けて銅相場の投機化がまた一段と進む可能性もある。

### 3. 為替の見通し

米国経済は相変わらず低迷しており、住宅等の個人消費の回復にも時間がかかりそう。一方、日本経済も厳しい状況が続いているが、米国よりも金融、企業、家計の各部門がまだ健全との評価から消極的な円買いが進んでいる。

日本としては急激な円高に歯止めを掛けたいものの、輸出に有利な自国通貨下落を促す各国の動きが一層進んでいる。

各国の為替政策の対立はますます激しくなる事も考えられる。

日銀による円安誘導政策も限定的と考えられるので、ドル安、円高の傾向は継続しそう。

場合によっては70円台/\$に突入する局面も十分に考えられる。

### 4. 相場の見通しと予測

銅相場は多少の上げ下げを繰り返しながらしばらく高値圏で推移すると思われる。

LME相場に加えて、為替の動向にも注意が必要。

以下の通り予測する。

短期予測 (1M) : LME \$ 7,900~8,700 為替 79~84 円  
銅建値 690~760 円/kg  
長期予測 (3M) : LME \$ 7,600~9,000 為替 78~86 円  
銅建値 660~780 円/kg

記者 日吉

